



国際ロータリー第 2620 地区(静岡・山梨)
米山記念奨学生学友会

会報Vol.5 2014-15年度



撮影:邱守蓮さん (台湾、2003-04 年度、神戸西 RC)

2015 年 5 月発行

目 次

(敬称略)

1. 米山記念学友会の皆さんへ・・・・・・・・・・RI 第 2620 地区ガバナー 岡本 一八
2. この一年、米山学友会とともに・・・・・・・・・・地区米山記念奨学委員会委員長 小澤邦比呂
3. 米山記念奨学委員一年生の記・・・・・・・・・・地区米山記念奨学委員会委員 小沼 孝次
4. ロータリアンから学んだ精神を仕事に活かしています・・・・・・・・台湾米山学友会 黄 盈智
5. 「出会い」を人生の糧に・・・・・・・・・・地区米山学友会 林 双
6. たくさんの励ましを受けて、明日へ・・・・・・・・・・地区米山学友会 ファン ティータン ホア
7. 奉仕の絆を心に刻んで・・・・・・・・・・地区米山学友会 陳 天鵬
8. 今年度の活動記録 (写真)
9. 会員動向 (写真)
10. 2014-15 年度期間終了した米山奨学生リスト
11. 2015-16 年度新規・継続米山奨学生リスト
12. 「会報 Vol. 5」の発行にあたって (あとがき)・・・・・・・・・・地区米山学友会会長 上野 佳子

1. 米山記念学友会の皆さんへ

RI 第 2620 地区ガバナー

オカモト カズハチ

岡本 一八（浜松北ロータリークラブ）

米山奨学事業は、日本最初のロータリークラブの創立に貢献した、米山梅吉氏の功績を記念して発足されました。皆さんもよくご存じとは思いますが、米山梅吉氏は、留学経験を素地に、実業家として活躍すると同時に、社会・文化事業支援を積極的に行い、晩年にも医療事業に尽力したり、私財を投じて小学校を創立したり、生涯を通して奉仕活動が続けた人物です。「何事も、人々からしてほしいと望むことは、人々にもその通りせよ」というのが、米山梅吉氏の願いであり、自らその言葉どおりに生き抜いた人だったのです。

そしてこの米山梅吉氏の想いを同じくし、引き継ぎ、後進の育成を通じた社会奉仕が、最終目的である「世界平和の実現」に繋がると信じ、皆さんを応援しているのが、世話クラブやカウンセラーの方々というわけです。

近年、国際交流が盛んとなり、多くの留学支援機関が存在します。単に勉学やコミュニケーション能力の向上だけを目的とした留学ならば、どこの組織を媒体にしても経験する

ことができるでしょう。しかし、敢えて皆さんは米山記念奨学会を選び、その一員、いわばロータリーファミリーになったわけです。ならば、積極的に学友会での活動に参加し、ロータリークラブのメンバーたちとの心の交流を深め、活かしていただきたいと思います。そして、生涯続く「日本のお父さん、お母さん」といった家族的な繋がりや、奨学生同士の兄弟愛にも勝る絆を深めてほしいのです。

更には、米山梅吉翁の精神を受け継ぐ奨学生としての誇りを持ち、ロータリーの目指す「奉仕の心」を世界に広め、活躍してくれることを願っています。現在ロータリアンは、世界200以上の国と地域に約3万4千クラブ、120万人が存在します。この仲間たちが、皆さんのネットワークにあることを、心強く思っています。

皆さん一人ひとりの輝きが未来です。皆さんの活躍が「世界平和」への架け橋です。今後も学友会と共に羽ばたいてください。おおいに期待しています。



2. この一年、米山学友会とともに

地区米山記念奨学委員会委員長

オザワ クニヒロ

小澤 邦比呂（パワー浜松ロータリークラブ）

昨年の、7月6日（日）地区米山記念奨学委員会・活動基本方針打合せ、指定校選定基準、及び米山学友会総会にはじまり、

- ・H26年10月19日（日）米山奨学生・カウンセラー研修会（米山梅吉記念館）、
- ・11月1日（土）～2日（日）地域貢献活動・親睦交流会 in 山梨（山梨県 甲府市）、
- ・11月15日（土）～16日（日）地区大会（グランドホテル浜松）、
- ・11月23日（日）面接官対象オリエンテーション（米山梅吉記念館）、
- ・H27年1月25日（日）面接選考試験（グランドホテル浜松）、
- ・3月15日（日）米山奨学生期間修了式・歓送会（グランドホテル浜松）、
- ・4月19日（日）新米山奨学生・新カウンセラー研修会（米山梅吉記念館）

上記の通り、地区米山記念奨学委員会は、全ての年間行事を滞りなく終了いたしました。この一年間を振り返りますと、米山記念奨学事業の価値を発信・伝達することの大切さを、つくづく感じた一年でありました。

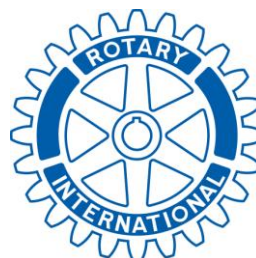
2015年度の、米山記念奨学生は、全国で716名、当2620地区では、新規米山記念奨学生19名、継続者2名、合計21名の米山記念奨学生を受け入れることになっております。奨学生を一定の奨学期間の中で、ロータリーの理念、活動を理解していただくべく、努力をしているわけですが、やはり米山記念奨学生を巣立

った米山学友会のメンバーの皆様と共に、連携して奨学生を育て育んでいくことが大切なことのように思います。

中国語の諺「水を飲めば、その源を思う」。何気なく飲む水だけれど、そうではなく自らの口に入るまでには色々な人々の努力によって、恩によって飲めるまでになっている。だからこそ、その恩を忘れず、いつかは恩返しをする、そして、恩を直接受けた人以外にも恩を返すことが大切である。

私たちロータリーファミリー（ロータリークラブ・米山記念奨学生・米山学友会）は、この諺を胸に刻み、また、これから米山記念奨学生となる未来の子供達のために、このご縁を大切に、益々米山記念奨学事業を活性させていきたいと考えます。どうぞ、今後共、第2620地区米山記念奨学事業に、ご支援・ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

結びに、米山学友会、上野会長・篠原副会長はじめ、全ての学友会のメンバーの皆様に感謝を申し上げ、一年間の活動の御礼といたします。誠にありがとうございました。



3. 米山記念奨学委員一年生の記

地区米山記念奨学委員会 学友会担当委員

オヌマ タカツグ

小沼 孝次（三島ロータリークラブ）

私が米山記念奨学委員会と学友会担当委員を引き受けましたきっかけはカウンセラーになったことからです。

「日本大学に在籍している優秀な男子学生のカウンセラーを探しているが見つからない、カウンセラーが居ないと奨学金の支給も滞ってしまうので頼みたい」と言われ、若い方の助けになるならば、とカウンセラーを引受けました。

それまで米山記念奨学委員会の制度は表面的には理解しているつもりでしたが、いざ担当することになりますとカウンセラーの役割が何かも漠として判らず、それからは資料を読んでの勉強となりました。

4月のオリエンテーション前に担当する学生の紹介書が届きました。マレーシア出身・日本大学在学の男子学生です。彼の日本語修学履歴は自国で半年、来日し日本語学校で1年半、そして大学入学後の3年間というものでした。英語を10年も習いながら身につかなかった私としてはコミュニケーションが取れるのかが一番の心配で、彼に会う前ひどく緊張したのを覚えています。しかし会ってみますと彼の日本語での会話能力は高く、ほとんど違和感はなく、例会場で彼と話してありますとメンバーが日本人の学生と間違えるほどでした。

彼を通して奨学生の皆さんと接していますと、ほとんどの学生の日本語会話能力はレベルが高く、まじめで勤勉。日本が大好きで留

学して来たのですから、日本の文化を一生懸命に吸収し馴染もうと努めておりました。ロータリー精神を理解し、日本と自国の懸け橋になろうとしている彼らの思いに頭が下がります。このような学生のいる米山記念奨学委員会制度の素晴らしさに気づかせてもらいました。

そんな折に、先輩である前任の小野米山記念奨学委員会委員が委員を長く担当したので退任するから、後任として引き受けないかと声がかかり、当然喜んでお受けした次第です。

優秀な学生が奨学期間を終了しますと入会するのが学友会ですから、学友の皆様も素晴らしい方々ばかりです。上野会長のリーダーシップのもと統制のとれた運営がされておりますので、学友会担当としては出る幕がございませんでしたが、このような方々とお付き合いくのでからとても楽しい1年間となりました。来年も引き続き委員を務めます。今年以上に充実した1年になりますよう活動していきたいと思います。



米山奨学生期間終了式にて

4. ロータリアンから学んだ精神を仕事に活かしています！

中華民國扶輪米山会（台湾米山学友会）

ファン インチー

黄 盈智（台湾、1981-82 年度、浜松北 RC）

皆様、こんにちは。ご紹介頂きました、中華民國米山学友会の会員、黄です。

こんな立派な会場で日本語でスピーチするのは初めてです。日本語が上手く話せないで、お聞き苦しいところもあるかもしれませんが、よろしくお願いします。

両親は、日本の教育を受けたので日常生活ではよく日本語を使っていました。特に子供たちに知らせたくない話をするときには、お互いに日本語で会話をしました。いつか日本語が話せるようになりたいと夢を見るようになりました。大学を卒業して2年間の兵隊の義務をおえて、日本へ留学する計画をしました。東京や大阪の大都会の生活費が高く、私は、まず生活費と学ぶ環境のことを考えた末、工場が多くあり、美しい環境の静岡を選び、大学の先輩の勧めもあったので、静岡大学大学院工学研究科機械工学科を申し込み致しました。おかげさまで、入学許可を頂くことができました。

昭和 55 年（1980 年）、浜松市の静岡大学大学院に入学したのですが、1 年生の時には、両親は公務員で収入が少ないので、アルバイトをしながら大学に通いました。

1981 年修士課程 2 年のときに、ロータリー米山記念奨学金を受けるようになりました。浜松北 RC の鈴木政治さんがカウンセラーをし

て下さいました。世話クラブの例会場もちょうどここ、グランドホテル浜松で私も毎月来ていました。鈴木さんご夫妻をはじめ、ロータリアンの皆さんは、故郷を離れた私が寂しい思いをしないよう、いつも温かく見守っていただき、家族団らんの食事に招いて下さったり、各地を案内してくれたりしました。32 年年経った今でも鮮明に懐かしく蘇えます。

自分よりも人のために尽くすロータリアンの皆さんの姿に感動し、学校では学ぶことのできない奉仕の精神を学ぶことができました。

20 年前に鈴木カウンセラーがロータリーの国際大会のために台北に見えたとき、私の家族をわざわざ台北の圓山ホテルに招待してくれました。またその国際大会で多くのロータリアンの皆さんと出会って懇親を深めたことは、私にとって貴重な経験でした。

今回、世話クラブから米山学友ホームカミング要請を受けて、さっそく鈴木カウンセラーに報告しようと電話をしたところ、奥様から鈴木さんが亡くなったことを聞きました。大変ショックでしたが、ホームカミング制度のお蔭で、鈴木さんのお墓参りをすることができ、感謝しています。

私は、今回感謝の気持ちだけでなく、ロータリークラブからの影響が私の社会的奉仕の考え方に、どれほどプラスになったのかお伝

えしたいと思います。

私は学生時代、浜松でホンダやヤマハなどでアルバイトをしたときに、「この経験を台湾の車両技術の進歩に活用させたい」と考えました。そして台湾へ帰国後、1987年に会社を設立しました。富士重工から車体開発の依頼を受けて、富士重工ジャスティ、従来の台湾の2BOXから台湾のユーザーが好まれる2.5BOXの開発の仕事をしました。

開発の仕事は、通常の機械の販売と違い、特に設計図面の打ち合わせなど、真心を込めてお客様の求める要求を満足させるのが何よりです。日本に留学中、米山奨学生のように学んだ職業奉仕のもとに楽しく作業を体験し、すべてのプロジェクトを1年間で完成し、日本の幹部たちを安心させました。良い経験をさせていただくとともに大変誇りに思います。自動車関連産業の経営者として今まで頑張ってきましたが、開発の仕事は、設計の打ち合わせなど、お客様のニーズを満足させることが重要です。日本留学中に学んだ「職場では自分に厳しく他人に優しく、人生の道場と考えて、力を合わせて職業奉仕で社会に、お客様に、皆様に信用を得る人生を歩む」という職業奉仕の精神が活かされています。

また長い間、機械産業と関わってきた私は、現在は健康の大切さを考え、仕事の合間に無農薬有機栽培の研究もしています。

台湾の米山学友会は設立31年。現時点の登録会員数は約500名。2007年からは奨学金制度が台湾でも発足し、毎年、台湾に留学する日本人若手研究者2名に奨学金を支給しており、今年で6年目になりました。こうした活動が米山学友会による日本と台湾の新しい「絆」になってゆくものと期待しています。



▲ 台湾学友会 2014 年次大会にて、板橋敏雄・米山記念奨学会名誉理事長（中）と徐重仁・台湾学友会初代会長（右）との記念写真。



※この原稿は 2014 年 11 月の浜松地区大会でのスピーチ内容をもとに加筆修正したものです。

5. 「出会い」を人生の糧に

2620 地区米山学友

リン ソウ

林 双（中国、2013-14 年度、掛川グリーン RC）

私は 2013-14 年度に、ロータリー米山奨学生に採用されました。ロータリーのおかげで、昨年の 3 月に、静岡文化芸術大学の修士課程を卒業し、現在日本の会社で働いています。

米山奨学生としての一年間はあっという間でしたが、私にとって、特別な一年であり、沢山のことを知り、有意義な一年間でした。最初、例会に参加する時、なぜロータリアンはわざわざ時間と金銭を出して週に一回集まるのかよく理解できなかったため、緊張と不安がいっぱいでした。その後、毎月 2、3 回例会に参加させていただくことによって、沢山の方々からお話を聞いているうちに、ロータリアンは世界各地で素晴らしい社会奉仕活動をしていることが分かり、彼らの奉仕の心に感動し、とても影響を受けました。

また、世話クラブでは沢山の活動に参加してきました。掛川国際交流会では、いろいろな国の方と出会えて、文化や習慣の面において、沢山面白い話を聞けました。南陵高校に訪問した際に、初めて日本の高校生の学校生活を見ることができ、そこで、高校生たちとコミュニケーションもできて、楽しい時間を過ごせました。この他にも、IM や地区大会に参加し、各分野で活躍されているロータリアンの方々にアドバイスをいただき、大変勉強になりました。これらの素晴らしい経験はすべて、ロータリーの皆様が与えていただき、心から感謝しています。そんな、皆様との出会いは、私の人生の財産です。

現在、私は浜松のリサイクル会社で事務の仕事をしています。今年の 1 月に中国から 3

人の研修生が入社し、日常業務では通訳もしています。お昼休憩の時に、研修生たちに日本の文化や習慣を教えたり、自分で経験した日中の違い、自分の思った日本の美しさなども話したりしています。少しでも両国の架け橋となる仕事に大きなやりがいを感じています。このような小さなことでも両国の壁に穴を開け、期待に繋がると 생각합니다。

仕事のほか、米山学友会の会員として、様々なイベントや行事などにも参加してきました。去年の地区大会、そして、今年新規米山奨学生の面接や、終了式などにもお手伝いをさせていただきました。先月、世話 RC の設立 20 周年の例会に出席し、クラブの方々と半年ぶりに再会し、非常に嬉しかったです。奨学生の頃も、カウンセラーの平野さんに言われたように、卒業しても、ロータリーとの繋がりが終わりません。今現在だけではなく、これからもロータリー、米山学友会との繋がりがずっと続きますように頑張りますので、今後とも宜しくお願いいたします。



平野カウンセラーご夫妻と

6. たくさんの励ましを受けて、明日へ

2620 地区米山学友

ファン ティータン ホア （ベトナム、2014-15 年度、甲府 RC）

米山奨学生になってからは、私の学生時代において、最も大きな変化の日々でした。

まず、勉強については奨学金のおかげでアルバイトの時間を減らし、勉強にもっと集中できるようになりました。大学院の2年生になってから、就職活動と研究とともに両立しなければならないので、奨学金を頂いてとても助かりました。無事に会社の内定を頂いて、今東京での廃棄物に関するコンサルティングの会社で働いています。

次に、甲府ロータリークラブとの例会と活動を通して日本の文化やロータリー精神などに触れることができ、多くの日本人の方々と出会え、自分の視野が広がりました。大学生生活で経験してきたものとは違う経験であり、同年代でなく、お父さんぐらいの年の方々とお話をすることができ、とても勉強になりました。私は大勢の人前で喋るのが苦手であり、いつも緊張しながら、早口でした。しかし、例会に参加したおかげで、毎月一回スピーチをし、ロータリアンの皆さんと話し、段々慣れるようになりました。自分の喋り方も上手になったと感じました。社会人になってから、皆の前に発表することが多かった私は振り返るとその時、すごくいい経験ができたと思います。

カウンセラーの内藤さんはじめ、多くの方のお世話になりました。内定をもらった時、結婚式や修士課程修了時、送別会など多くの皆さんからたくさんのお祝いをいただいて感動しました。皆さんと豆まき祭りに参加したり、カラオケに行ったりしました。そして、

学友会の活動に参加することによってたくさんのいい思い出と楽しい時間を過ごすことができたのも良かったです。私の研究のことだけでなく、就職活動もプライベートの面にも色々聞いてくれて、アドバイスもいただきました。いつも私のことを応援して下さいった甲府ロータリーの皆さん本当にありがとうございました。

社会人になっても、甲府ロータリークラブの皆さんのことを忘れられない、将来帰国しても日本のことを思い出せば、一番思うのは山梨のこと、ロータリークラブの皆さんのことだと思います。私のことを成長させていただいた皆さんに心から深く感謝しています。これからも社会人の生活に慣れるように頑張ります。ロータリー家族の皆さんと再会できるのを楽しみにしています。

（東京都在住）



内藤カウンセラーご夫妻と

7. 奉仕の絆を心に刻んで

2620 地区米山学友

チン テンホウ

陳 天鵬（中国、2014-15 年度、甲府北 RC）

ロータリー米山記念奨学生になって、あっという間に一年間が経ちました。この一年間、いろいろな経験をしたり、見聞したりして、充実していました。立派なロータリアンたちと出会い、人と人との絆の温かみをしみじみと感じました。

ロータリー米山奨学生の面接を受けるときに、「ロータリークラブが何をしているのか、知っていますか」と聞かれました。その時、自分が「ロータリーは将来、母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学する活動をしています」と答えました。面接官は「ほかにいろいろやっていますよ」と微笑みながら言いました。実際に例会に参加して、奨学活動は本当にロータリー活動のごく一部だと気づきました。地域振興、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕や青少年交換事業など、ロータリーはいろいろな奉仕活動を展開していることがわかりました。ロータリーは本当に社会に貢献する役割を果たしていることに感心しています。

また、世話クラブでロータリアンと交流することや、学友会の奉仕活動や地区大会などを参加することなどを通じ、私自身は勉強のことだけではなく、日本文化への理解も日本社会への理解も深めてきました。

この一年間に、少し将来のことも考えました。最初の頃には、日系企業に就職したいと考えました。自分の専門はビジネスに関するものですし、そして日系企業が多い町、無錫の生まれ育ちですので、故郷の日系企業に就職できればいいなと思っていました。しかし、

日本に来て、特に米山奨学生としての一年間を過ごしてきて、考え方は変わりました。日本で知らない人が笑顔で挨拶したり、バイト先でよくできなかったときに「頑張ってください」と同僚が励んだりしてくれます。例会でロータリアンもいつも優しく声をかけてくれます。この他人への思いやり、人と人との絆や人と人との温かみをすごく感じています。この温かみを知らない母国の人々に伝えたいと考え、将来は先生になりたいと考え始めました。そこで、日本で学んだこと、ロータリー米山奨学生として経験したことを生かしたいと思います。

中国で「飲水思源」という言葉があります。飲水思源とは、「水を飲む者は、その源に思いを致せ」という意味です。これからも、自分もロータリアンたちからいただいた、この奉仕の絆を心に刻み、前向きにしっかりと頑張っていきたいと思います。

（東京都在住）



中川カウンセラーと

8. 今年度の活動記録（写真）



(1)

(1) 2014年7月6日、第6期通常総会 in 米山梅吉記念館

(2)

(3)

(2) ~ (5) 2014年11月1~2日、清掃奉仕、親睦交流 in 山梨県甲府

(2) (3) 甲府駅前にて、「ポリオ撲滅」募金活動と駅周辺の清掃奉仕活動

(4)

(5)

(4) 宿泊先の旅館で親睦交流会

(5) 観光ぶどう園でぶどう狩り



(6)	(7)	(6) (7) 2014 年 11 月 16 日、地区大会 in グランドホテル浜松
(8)	(9)	(8) 2015 年 3 月 15 日、米山奨学生期間終了歓送会 in グランドホテル浜松 (9) 2015 年 4 月 19 日、新規米山奨学生オリエンテーション in 米山梅吉記念館
(10)		(10) 2015-16 年度米山奨学生の皆さん

9. 米山学友・会員の動向



- | | |
|-----|--|
| (1) | (1) 線倫倫さん（中国/2013-14/掛川 RC）、博士号を取得して帰国。大学の教員に |
| (4) | (2) 楊悦さん（中国/2006-08/富士宮西 RC）、15 年 2 月に第 3 子の次男誕生 |
| (2) | (3) 李ウユンゲリレさん（中国/2011-13/浜松東 RC）、15 年 4 月に第 1 子の長女誕生 |
| (5) | (4) ワイ・モン・チョーさん（ミャンマー/2013-14/静岡中央 RC）、結婚しました |
| (3) | (5) ラシタさん（スリランカ/2006-07/甲府南 RC）、14 年 8 月に第 1 子の長男誕生 |

10. 2014-15 年度期間終了した米山奨学生

(50 音順)

氏名	性別/国籍	現居住地	世話 RC
イスラム, モハマト ジョヒル	男/バングラデシュ	静岡県	磐田
王 維 穎 (オウ イエイ)	女/中国	山梨県	大月
王 理 明 (オウ リメイ)	男/中国	山梨県	甲府城北
オトゴンダワー, アリウンズル	女/モンゴル	モンゴル	浜松南
グエン, ブイ ティ ゴック	女/ベトナム	ベトナム	清水西
高 坤 (コウ コン)	男/中国	中国	山梨中央
周率 (シュウ リツ)	男/中国	神奈川県	袋井
鄭 珍 錫 (ジョン ジンソク)	男/韓国	静岡県	静岡南
暢 婉 君 (チョウ エンケン)	女/中国	中国	パワー浜松
陳 天 鵬 (チン テンハウ)	男/中国	東京都	甲府北
童 紹 絢 (ドウ ショウケン)	女/中国	中国	三島
范 偉 達 (ファン ウエイタ)	男/マレーシア	東京都	三島
ファン, ティータン ホア	女/ベトナム	東京都	甲府
毛 方 圓 (モウ ホウエン)	女/中国	静岡県	富士山吉原
劉 栗 彤 (リュウ リタン)	女/中国	静岡県	静岡日本平
レ, ジャン ティ	女/ベトナム	東京都	甲斐シティ



11. 2015-16 年度新規・継続米山奨学生

(50 音順)

氏名	読み方	性別/国籍	世話 RC
石 坤	イシ コン	男/中国	浜名湖
于 春蘇	ウ シュンソ	女/中国	パワー浜松
ウディン, モハマド カジャ マフィズ		男/バングラデシュ	浜松ハーモニー
ヴ, マン ユン		男/ベトナム	市川大門
ヴォ, ティ トウ トウ		女/ベトナム	静岡北
王 歆	オウ カン	女/中国	笛吹
王 娜	オウ ナ	女/中国	甲府南
郭 聡	カク ソウ	男/中国	都留
金 加喜	キム ガヒ	女/韓国	静岡西
侯 華香	コウ カコウ	女/中国	甲府北
黄 潔	コウ ケツ	女/中国	浜松中
鐘 佑希	ショウ ユウキ	女/中国	甲府
タン, ティ ラム クエン		女/ベトナム	浜松北
ドー, クーン ベト		男/ベトナム	藤枝南
韓 叡松	ハン イェソン	女/韓国	焼津
朴 星辰	パク ソンジン	男/韓国	長泉
胡 徳	フ ドウ	女/中国	掛川グリーン
ブ, アン トウイ		女/ベトナム	浜松東
ホッピン, エムデ アミール		男/バングラデシュ	浜松西
李 森	リ ミョウ	女/中国	浜松
駱 予倩	ロ ヨチェ	女/中国	山梨中央



12. 「会報 Vol.5」の発行にあたって（あとがき）

地区米山学友会 2014-15 年度会長

ウ エ ノ ヨ シ コ

上野 佳子（中国、2000-02 年度、東京臨海東 RC）

この「会報 Vol.5」の発行にあたって、まず、RI 第 2620 地区ガバナー岡本一八様、地区米山記念奨学委員長小澤邦比呂様、同学友担当委員小沼孝次様に、ご多忙の中ご寄稿をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

また台湾米山学友会の黄盈智先輩をはじめ、当地区米山学友の皆さんにも原稿や写真を提供していただき、会報が予定通りに発行できたことに深く感謝いたします。

この1年間は、地区米山記念奨学委員会の全面的バックアップと学友会の仲間たちのご協力のもと、年度事業計画を無事、遂行することができました。

ふり返ってみると、昨年7月の通常総会から新年度がスタートしました。11月の「清掃奉仕、親睦交流 in 山梨」では学友会のメイン・イベントを初めて山梨県で開催し、地元からも多くの学友や奨学生が参加してくれました。また地区大会はもとより、米山奨学生選考会、米山奨学生期間終了式、新規米山

奨学生オリエンテーションなど地区米山記念奨学委員会の諸行事にもお手伝いをさせて頂きました。微力ながらロータリアンの皆様への奉仕ができたことを誇りに思います。

個人的には、今年1月に公益財団法人ロータリー米山記念奨学会が主催の「全国学友会会長セミナー」（東京）に参加し、出席された29の学友会会長とディスカッションなどを通じて交流し、意義ある1日でした。事務局長岩邊俊久様が紹介された“Ubuntu（ウブントゥ）”という南アフリカの言葉がとりわけ印象に残りました。ウブントゥは「あなたがいるから私がいる」という共生の、人間の絆を表すものだそうです。つまり「自分の幸福が他者の幸福にも深くつながっていること。危険や苦痛を、そして喜びや達成感を共有します」ということです。

最後に、学友会のさらなる発展のために、引き続き、ご指導、ご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。





学友会事務局：

〒411-0941

静岡県駿東郡長泉町上土狩 346-1

公益財団法人 米山梅吉記念館 内

Tel：055-986-2946

Fax：055-989-5101

メールアドレス： yoneyama2620@gmail.com



<http://www.facebook.com/RY2620>

本号編集担当者 上野佳子